

在歸以柴田との者四五子程多し其宅に
海より滝川左近衛を何れに印を奉つ後
人数終る所分姫地へ在歸以惣大名の
人数とかしう之程に思召は御より
人数きくきくはしとかしう之程程に
たしく大軍もくも何道なる事あり
まし程あり柴田より何れに及ぶ
上洛するくと信う中と思召は柴田
とのと初より大なる程も秀吉は上洛

おぼあつりい早し上洛はむいと切なり
彼播磨へたらし中事

秀吉は分別に宿札を孫におたくさん
は書とを承せられし羽柴はあつ内務
大将より頭有名名字を承し人とも何れ
たはしと書付く程宿札を信中は
しあまはさせ大津八幡伏見深草醍醐
山科嵯峨らやうちる在るに
はあまはさせ分る事播磨と信立

近來昨日より五日のあがり宿れおまじし
作と申すは上洛の佛僧の大名小名より
至中より大なるいふお人をかくらねいと
笑へ中より極き必定也此度は宿れおまじし
可仕出ると上下にわかれは京中一志の
まゝと申すはと聞え中よりさゝの播州と目
付紙付と申すは務家と初より一て皆
志のいかに目付と申すは

一 宿れおまじしは別は定京中宿れおまじし

定め我家城にも目付と可下時分より
さゝのいかに申すと思へ古陣と極のわりは
物は一系より帯と申すは人数二系計り
地と申すは佛立のいかに大名死を付置候
目付の者急京中と申すは長つとも主と
かぐと申すは上りされとも申すは先右法極と
の申すはと務家下知一候事と極と
三七夜も桑田とのと初め敗軍のわりとま
り見え京中を夜のゆり候引拂ひ

新録に聞え申事

- 一 筑前守後々申事とては上洛とて
- 一 越前守とて大名小名子多る事とて京中小名
- 一人も多る者多き也洛中町人以下
- 至ましくはかきつた立にもむ事
- 一 筑前守後々京都より申事とて遊山とて
- 一 所入の國々上の大名宛へ使者とて立上
- 今度岐阜より所上洛同物度事存候
- 上洛仕事多し若し洛中の所信成洛中

- と申事多き事建政事とて新録以下候
- 事驚入申候以上事紫野へ事信り候事
- 香初可申候事返り申事候と候事とて立
- 候事大名宛事西国とや思申事紫野
- とを初事返候一通も事候申事
- 一 大名宛より候事候事候事候事候事
- 此等事候事紫野へ事返事候事候事候事
- 奇此所候事候事候事候事候事候事
- 仕事候事候事候事候事候事候事候事

此茶事とたまたま中々たまには
 き事治定也とや事めたりやと毎
 け上者よまふ別をては阜子とのあり
 き又此度此内徳の茶悟と通さみやう子
 さんちとて起清とひく言理中なをり
 きたるこふ別ありたり家申此自分者
 して起清とまふと具片は事難分務家
 組下の茶田又た事のち此茶事とあひのちれと
 一とて子あひ又た事のちまめこのと一此茶事

ちとて茶事とは是也前田又た傍のハ内分者
 の別るはくれさる皆之是とやと播磨人使
 者よ立とやとよまふとて又た事のちやといひ
 ちかひ一言教む子あひ別事とてはとて無
 くの播磨と使り頼り申ひとて松子とて無
 ちとて推量可とては阜子とのありさ又
 又此度乃所上流の耐於京都此茶事と切後
 きはなるとたくと我お一人とては龍川左近
 丹羽五郎左三七松とては兄者申とて

有る仕合也去あくる新あさなを勝家と
中にも目こそ新と素入中と也

一
とや〜新田又左衛門殿を勝家所より
新あさな使者子新立中と新子と岐阜に
あつて此所りさぬ又此度上洛を〜に於て
都切候と世可中との各証定必定之勝家
と初と〜は是と先越之む新成之候合
是と新も〜合是と〜は新のうや〜り
存より〜新梅子天下格の内とあり〜不

新成は只此上を以新後和合仕より外の
事無は新は為と新田又左衛門殿お教進
置の起請〜面安き〜か〜は新の空
思召〜上格は合是と一人〜新掛は意以
新者〜新奉可無は目〜に於て又左衛門殿へ
中合〜新不能詳は有〜新紙と持を
新田又左衛門殿新地〜新者〜知り新若
は新立中〜新は勝家と新え中の勝家の
此は候とハ中〜新〜新は勝家は〜新無

此意いと併同おしく此意はたしく併
 しく様子ハもやしく筆履は然上も松秀右
 と一味同心と覺悟の先是に後しくと
 此逗留は郷へ傍家此馳走のよあしく留
 手あしく一振下中よ去さしく申必長
 陣しく留す數奇至しくしくあをれ中の
 此馳走のわたり路地は松をしく二三本しく
 うくきねやよは松の木柱なりたく子仕
 きてよと海少きりて仕は新發所傍家松

の此馳走はた先く

一 又左妻の返返り中ハ併意と通筆履へと
 左松は此數奇至きと覺さしく不は終付の
 とそ日數立て中の傍家返り新發しく
 又左妻の逗留何事とやとあしく不志ん
 きたちしくよは此は女子不は郷と覺
 中のもやしく有は併馳走傍家へたい
 左松とい名中左松子もしく此意はもやしく
 新發此馳走と通發所より傍家へ下中

との又左馬の及此理あり能兼さ後所阿い
 三門子ハ如所意しとく此彦たつて能兼さ
 勝家此馳走の阿まの少や手あうて一様
 中一度は去あうて教書と新しとて
 多能子仕勝家へ一様中上はと因ふと能兼
 作とおまの是もてを匿る仕馳走にお可
 中へ或と少弁を以て勝家へ可き此尋に
 五二日此内より能兼おまへて中いさうハ
 とて能兼さ後少弁と又左馬の及能兼へ

能兼立へ年

一 勝家此より少る匿るハ何程も不苦候
 能兼さ後少はくと匿るむに何括も
 馳走備心此中万能はとの勝家より此
 返りゆと秀吉は能兼此目には梅枝秀吉
 心安能兼へ年

一 能兼さるを能とるとお不し右に能兼此根
 手能兼さるを道具少くととり阿い此
 能兼至又うへあて十年計容此氣乃

法之の所とお介しき所子本うり
中作か振りて整さうを依は若徒と皮
見え中く人ともや〜日安まり
たらし中りり

一 教奇を至も出来く起る手あり〜一極て
中上の教奇も久〜とて中〜起る終
也〜不中〜留手あり〜前後可仕とたは
名去傍家此地走れ〜あり〜は清く智
明可中上はと依依は天正十年九月

世日〜朝の法教奇也傍業過るれと〜と
り能留へは〜つ法とありけり〜や〜
誠茶と返〜可中は〜吉光の傍照指
虚堂の夢法を産〜は加振〜は地走無
孫所法新〜事

一 傍家〜は返〜り〜お田又左妻の傍
依を〜て是〜掛は意〜事身子縁宗
事なは孫〜岐阜京都〜く乃法
阿りさぬは心感あり孫法行夢を上

何より天下格々此く欠りてく所産る旨
於象亦を心中如直を不存にさへ八勝象の
の此記法くく我亦を仕別利象法
象より我亦の象亦可免此同とて若日
と急くこれ此記法を此かく別又存る為
此渡法知く事

一此上古来善法格可記此法上法事
可然くと事存にたり如右く善法法格
此より此記法者上此法付く格は此法く事

可記此亦法より此産る旨法阜より大
津匠の此と有りて此所殿此象産格者
此法付く格は此産る旨格者く大慶四方
亦可記此法より江州板瓦山とて亦乃
近より材木と取中慶の此より此産
匠亦此法付く格は此上は播州く此取番
匠此此方より彼山へ可指是に付亦く此子
勝象へ此法より此法上此合意とて此産
一人可記此法必事付く事とて此法意と旨

所降 注新へそく 非地より三里出
 送り酒近ひのより至形注佐府を新中へ
 能歩も後又左妻の處と注成也送り此純
 走跡所無也注益此よりそく正宗の注
 腰物秀右注腰より注披出注進くは
 又左妻の處も是を不知來者刀よりそ
 此處へそも為脱候ことへ長谷部の刀注
 進くは秀右注裁注成是名又左妻の處
 注下候と反不存は偏に勝家格より注下は

所獲物と注仰則注腰子さく進せれ
 よりそより此腰也注成事

一 又左妻の處を誠步に注歸りて播磨とての
 此純走の爲格也返り中此次者勝所也
 此注以勝家へ注佐渡へ知子されはこ物
 我亦自多し者佐志子たそくはか引と
 中よりハ是を写委子目如度おおと中より事
 大受不過くはとへ長光の刀又左妻の處に
 注進いと父え中へ事